

経営比較分析表（令和3年度決算）

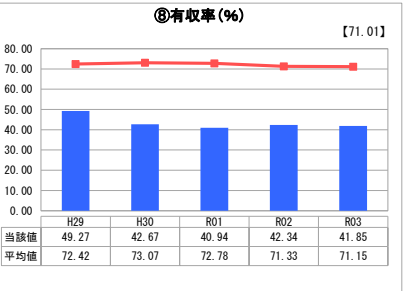
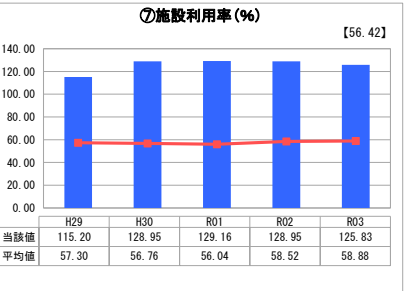
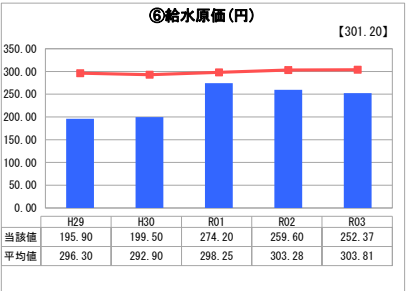
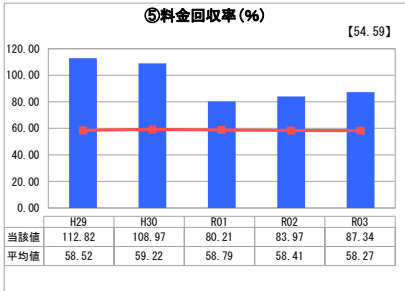
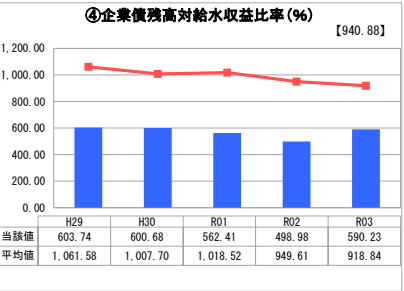
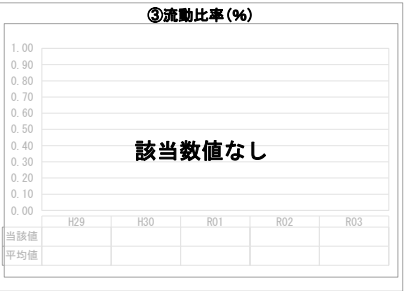
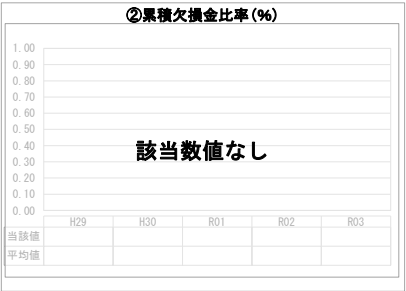
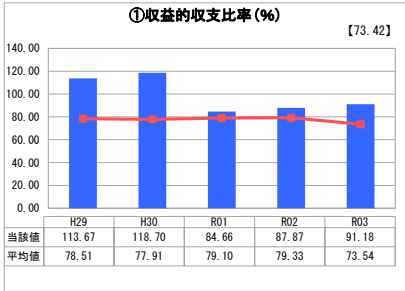
大分県 九重町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	44.37	3,780	

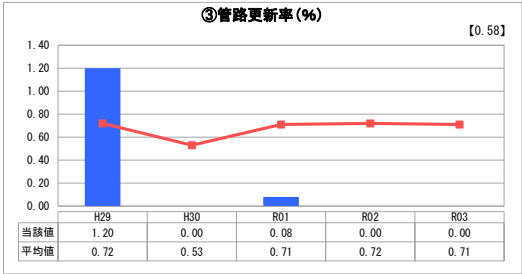
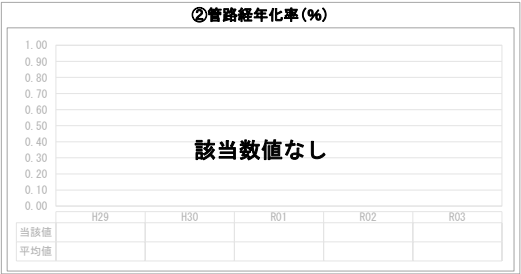
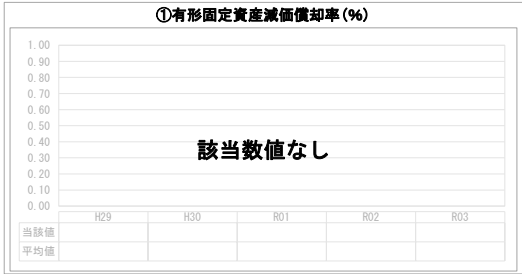
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,916	271.37	32.86
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,928	8.20	479.02

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①令和1年度から平成28年度の地震災害復旧による借入金の償還が始まり償還額が増加したため比率が低下している。今後も事業債の発行が予想されるため、上昇又はほぼ横ばいになると予想される。

④企業債残高対給水収益比率は類似団体と比較して低位である。令和3年度は配水池の更新を行ったため借入額が増加したことにより比率も増となった。

⑤料金回収率については償還額が増加し原価が上昇したが大幅な漏水量が減少し単価が低下したため前年度より上昇した。

⑥給水原価については償還額が増加したことから令和1年度から上昇しているが有収率が上昇することで低下していく。

⑦100%を超える利用率であるが、施設の稼働が収益につながっていないのが課題である。原因としては漏水がある。

⑧大幅な漏水があるため、有収率が低い。漏水量の低下は、施設への負荷や浄水を精製する単価へも影響があるため、重要な改善項目と考える。

2. 老朽化の状況について

既設管の修繕に追われている状況であり、管路の更新費用を捻出できていないのが実状である。材質不明管や敷設年度不明管が膨大な数あるため、不明管の調査から行うところから進めていかなければならない。

全体総括

課題は、漏水による有収率の低下である。町統合簡易水道については、水質は良好であるため塩素減菌のみの処理の水系が半数となっている。水処理自体はローコストで行えるため、多少の漏水は影響が少なかった。しかし、分析してみると施設への負荷がかかっていることや、有収率の低下を招きかねないなど、影響は少なからずみられている。今後、漏水箇所が拡大して流入が追いつかなくなることも懸念されるため、調査に力を入れていき、管路の更新計画につなげていきたい。